

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 19

暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策(2)

今年の麦は、11 月下旬～1 月下旬が高温（平年差：+2.1℃、前年差：+1.1℃）に経過したため、生育は平年と比べ、2～3 週間程度早く、生育の早かった前年よりさらに早い茎立ちが予想される。また、1 月下旬の降水量が多く経過したため（平年比：409%）、土入れ・踏圧、追肥などの中間管理作業が進んでいない。

向こう 1 か月の季節予報（福岡管区気象台発表：2 月 1 日～2 月 29 日）では、気温が高く、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いと予想され、麦の生育、収量への影響が心配される。そこで、麦の収量安定のため、下記のような技術対策を実施する。

<作況試験（農林試 農産部）における予想茎立期>

播種時期	品種名	予想茎立期(見込)	前年値	平年値
11 月 20 日	チクゴイズミ	2 月 2 半旬	2 月 3 半旬	2 月 6 半旬
	ちくし W 2 号	2 月 1 半旬	2 月 3 半旬	2 月 6 半旬
11 月 25 日	ほうしゅん	2 月 3～4 半旬	2 月 4 半旬	3 月 1 半旬

技術対策

(1) 排水対策

降雨時の表面排水が速やかに行われるよう排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝し、排水対策を徹底する。

(2) 土入れ・踏圧

土壌が乾燥した時点で速やかに土入れ・踏圧を実施する。

踏圧は、節間伸長開始期前（踏圧の晩限：草丈 25cm 程度。）までに実施する。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、2 月下旬までに 2～3 回行う。播種期や地域により生育差が大きいので、作業はほ場の生育状況をみて判断する。

(3) 雑草防除

今後、ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類などの広葉雑草の発生が予想される。また、麦の生育量が多く、除草剤が雑草の茎葉へ十分に処理できないことも考えられるため、雑草の草種や発生状況を観察し、茎葉処理除草剤を早めに処理する。なお、除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1 回目の追肥が終わっていないほ場では、基準量を速やかに施用する。

2 回目の追肥（穂肥）は、小麦、食料用大麦・裸麦ともに 2 月中下旬に基準量を施用する。ただし、葉色が低下した場合は、2 回目の追肥時期を早める。また、排水不良のほ場では、10a 当たり窒素成分で基準量より 1～2 kg 多く施用する。



溝を排水口につなぎ、地表水を排水

以上